

富田林市文化財調査報告 62

平成 29 年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2018. 3

富田林市教育委員会

はじめに

富田林市は大阪府の南河内地域に位置します。雄大な金剛・葛城連峰を背景とし、自然や歴史に恵まれた住み良いまちとなっています。

特に、古くは旧石器時代から人々が生活を営んでいたことが発掘調査により分かっており、太古の昔から人々の生活する場として適した土地であったことを示しています。

また、富田林寺内町は大阪府内で唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、一歩町へ足を踏み入れると、江戸中期～昭和にかけての町家が数多くあり、情調ある町並みが残されています。

本書は、富田林市内で平成 29 年度に実施した甲田遺跡の緊急発掘調査についての報告書となります。発掘調査による成果は理解が深まることもあれば、さらなる謎を呼ぶこともあります。今回の調査では、これまでの調査成果に新たな知見を加えることになりました。皆様の元に少しでもこれらの成果をお伝えできればと願います。

最後になりましたが、緊急発掘調査および本書の刊行におきまして、ご理解とご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

富田林市教育委員会
教育長 芝本 哲也

例 言

1. 本書は、平成 29 年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日にかけて実施した。
3. 平成 29 年の現地調査および整理作業は、同課職員河東 潤・角南辰馬・林 正樹、同課非常勤職員渡邊晴香が担当し、同課非常勤職員桑本彰子がこれを補佐した。
4. 本書には整理作業等の都合から、平成 29 年 11 月 30 日までに現地調査が終了したものを掲載した。
5. 執筆・編集は渡邊が行った。
6. 本報告書で掲載している出土遺物、図面、写真などの資料はすべて本市教育委員会で保管・管理している。
7. 発掘調査にあたっては土地所有者をはじめ、関係者各位の理解と協力を得た。ここに併せて感謝の意を表したい。

凡 例

1. 本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（T. P.）で表示している。
2. 現地調査における土色の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1970）を使用した。
3. 出土遺物実測図は土器類 S=1/3、瓦類 S=1/4 で掲載している。
4. 引用・参考文献は巻末に示した。

目次

第1章 平成29年度の調査状況	1
第2章 甲田遺跡（KD2016-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過	7
第2節 調査の成果	9
1. 基本層序	9
2. 遺構	11
a) 第4検出面	11
b) 第3検出面	11
c) 第1・2検出面	11
3. 遺物	13
第3節 まとめ	15
参考・引用文献	16
報告書抄録	

挿図目次

図1 市内遺跡分布図	4
図2 新規発見遺跡と周辺遺跡分布図	5
図3 調査地周辺遺跡分布図	7
図4 主な既存調査地点図	8
図5 調査位置図	8
図6 南壁土層断面図	9
図7 第4検出面（14層上面）平面図・SK1断面図	10
図8 第1検出面（6層上面）平面図・SD1断面図	12
図9 出土遺物（1）	13
図10 出土遺物（2）	14

表目次

表 1	発掘届（通知）受理件数	1
表 2	発掘調査一覧	2
表 3	試掘調査一覧	3

図版目次

図版 1	甲田遺跡（KD2016－1） 上：調査地より西をのぞむ（東より） 下：南壁土層断面（北より）
図版 2	甲田遺跡（KD2016－1） 上：第 4 検出面（14 層上面）遺構検出状況（東より） 下：13 層より踏み込む偶蹄類の足跡
図版 3	甲田遺跡（KD2016－1） 上：第 1 検出面（6 層上面）遺構検出状況（北より） 下：北壁土層断面（南より）
図版 4	甲田遺跡（KD2016－1） 上：SD 1 土層断面（北より） 下：SD 1 完掘状況（北より）

第1章 平成29年度の調査状況

平成29年1月から12月について、文化財保護法第93条・94条に基づく発掘届出・発掘通知の提出状況は、表1のとおりであった。

これによると発掘届出(93条)の件数は136件、通知(94条)の件数は20件であり、合計156件となっている。前年度(平成28年1月から12月の間)の届出と通知の件数を比べると、発掘届出(93条)が136件、通知(94条)が22件とはほぼ本年と同件数であった。ここ数年、届出・通知件数は徐々に増加傾向にあったが、開発の波も少し落ち着いてきているのかもしれない。

今年度に届出・通知された中で発掘調査に至った件数は20件であった(表2)。これに対して前年度である平成28年に発掘調査へ至った件数は16件であり、やや増加している。

平成29年に国庫補助事業として本発掘調査を実施したのは、甲田遺跡で2月15日から3月3日まで発掘

表1 発掘届(通知)受理件数

	発掘届出(93条)						発掘通知(94条)						合計
	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	
道路	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	2	8	8
宅地造成	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
個人住宅	9	21	13	0	0	43	0	0	0	0	0	0	43
分譲住宅	0	7	10	0	0	17	0	0	0	0	0	0	17
共同住宅	2	2	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
兼用住宅	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
店舗	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
工場	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他建物	3	2	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
学校	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
公園造成	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ガス	0	0	27	0	0	27	0	0	0	0	0	0	27
電気	0	0	25	0	0	25	0	0	0	0	0	0	25
水道	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	5	5
下水道	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	5	5
電話通信	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他開発	1	2	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	4
小計	23	35	77	0	1	136	0	6	12	0	2	20	156

表2 発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積 (㎡)	調査結果	担当者	備考
1	12月12日 ～ 5月31日	若松町一丁目	畑ヶ田遺跡	共同住宅	2093	遺構・遺物あり	角南	HD2016-1
2	1月10日	錦織南一丁目	錦織南遺跡	分譲住宅	0.5	遺構・遺物なし	林	
3	1月10日 ～ 1月19日	錦織東一丁目	錦織遺跡	その他建物	29	遺構・遺物あり	渡邊	NK2016-1
4	1月19日	喜志町五丁目	喜志西遺跡	その他開発	0.9	遺構・遺物なし	林	
5	1月18日 ・1月23日	甲田二丁目	甲田遺跡	個人住宅	6	遺構・遺物あり	林	KD2016-1
6	2月10日	宮甲田町	新家遺跡	宅地造成	3	遺構・遺物なし	林	
7	2月15日 ～3月3日	甲田二丁目	甲田遺跡	個人住宅	75	遺構・遺物あり	渡邊	KD2016-1
8	3月30日	甲田一丁目	甲田遺跡	個人住宅	4	遺構・遺物なし	渡邊	
9	3月28日	寿町二丁目	毛人谷遺跡	宅地造成	17.5	遺構・遺物なし	林	
10	3月9日	中野町三丁目	中野北遺跡	共同住宅	1	遺構・遺物なし	林	
11	1月5日 ～ 3月10日	喜志町三丁目	喜志西遺跡	共同住宅	380	遺構・遺物あり	林	KSW2016-1
12	4月7日	錦織東三丁目	錦織南遺跡	工場	4.3	遺構・遺物なし	林	
13	5月25日	甲田二丁目	甲田遺跡	個人住宅	1.1	遺構・遺物なし	渡邊	
14	7月25日	若松町五丁目	中野遺跡	その他建物	6	遺構・遺物あり	渡邊	設計変更により影響なし
15	8月3日	別井二丁目	別井遺跡	その他建物	1.5	遺構・遺物なし	林	
16	10月11日	寿町四丁目	太郎池遺跡	宅地造成	6	遺構・遺物なし	渡邊	
17	11月16日	錦織中二丁目	錦織南遺跡	個人住宅	1.4	遺構・遺物なし	渡邊	
18	11月24日	喜志町一丁目	喜志遺跡	兼用住宅	8	遺物あり	渡邊	
19	10月24日 ～ 12月6日	大字彼方	滝谷遺跡	その他建物	83.4	遺構・遺物あり	林	新規発見 遺跡 TD2017-1
20	12月21日 ～ 12月26日	甲田二丁目	甲田遺跡	個人住宅	5.4	遺物あり	角南	KD2017-1

調査を実施した1件（表2-7）のみで、個人住宅建設に伴った本発掘調査である（本書第2章にて報告）。

埋蔵文化財包蔵地外での開発に伴って提出された試掘調査依頼は20件あった。そのうち実際に試掘調査を実施した開発については11件であり、前年度の10件とほぼ変わらない（表3）。

このほか、包蔵地外で試掘調査依頼書をもとに立会調査を実施したものは9件で、前年度は13件実施している。また、平成28年は試掘調査依頼書の申請面積が1000㎡を超える開発が依頼件数の半数を上回っている。

表3 試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積 (m ²)	調査結果	担当者	備考
1	1月12日	甲田一丁目	店舗	6.4	遺構・遺物なし	林	
2	1月31日～ 2月1日	大字彼方	店舗	60	遺構・遺物なし	渡邊	
3	4月3日	谷川町	共同住宅	5.5	遺構・遺物なし	渡邊	
4	5月8日	山中田二丁目	その他建物	4.5	遺構・遺物なし	渡邊	
5	7月26日	寿町二丁目	共同住宅	3	遺構・遺物なし	渡邊	
6	8月10日	桜井町一丁目	共同住宅	1.5	遺構・遺物なし	渡邊	
7	9月15日	大字佐備	その他開発	6.2	遺構・遺物なし	渡邊・林	
8	9月22日・ 26日 11月13日	大字彼方	その他建物	8.6 4.0	遺構・遺物あり (本調査になる)	河東・渡邊 林	滝谷遺跡 TD2017-1
9	10月5日	寿町二丁目	その他建物	7.3	遺構・遺物なし	渡邊	
10	10月6日	大字錦織	店舗	5.5	遺構・遺物なし	角南	
11	11月7日	若松町四丁目	宅地造成	3	遺構・遺物なし	渡邊	

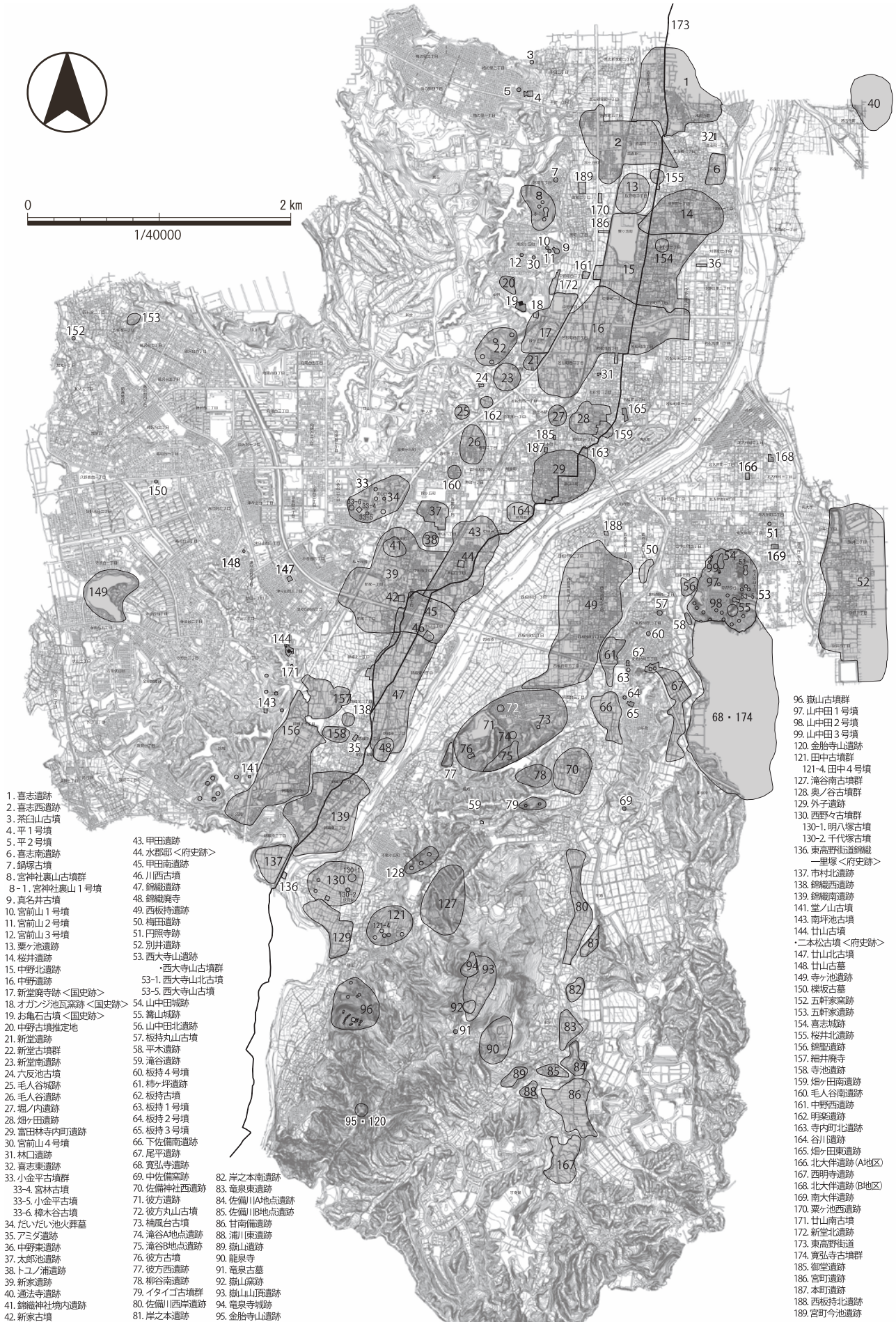
たが、平成29年は小規模な開発に伴う試掘調査依頼書の提出が目立っている。

本年度実施した試掘調査によって1件、新規に遺跡が発見された。大字彼方所在の瀧谷不動明王寺の寺務所棟・客殿建替え工事に伴うもので、試掘調査時には中世から近世にかけての遺構と遺物がみつかった。遺跡名は滝谷遺跡とし、試掘調査後に本調査を実施している(図2)。

ここ数年は毎年1～2件のペースで新規発見遺跡もしくは遺跡範囲が拡大する遺跡がみつかっており、これまで試掘調査を実施する機会がなかった地域での開発が多くなってきていることがわかる。



0 2 km
1/40000



- 1. 喜志遺跡
- 2. 喜志西遺跡
- 3. 茶臼山古墳
- 4. 平1号墳
- 5. 平2号墳
- 6. 喜志南遺跡
- 7. 錦塚古墳
- 8. 宮神社裏山古墳群
8-1. 宮神社裏山1号墳
- 9. 真名井古墳
- 10. 宮前山1号墳
- 11. 宮前山2号墳
- 12. 宮前山3号墳
- 13. 粟ヶ池遺跡
- 14. 桜井遺跡
- 15. 中野北遺跡
- 16. 中野遺跡
- 17. 新堂築寺跡<国史跡>
- 18. オカシツ池瓦葺跡<国史跡>
- 19. お亀石古墳<国史跡>
- 20. 中野古墳推定地
- 21. 新堂遺跡
- 22. 新堂古墳群
- 23. 新堂南遺跡
- 24. 六反池古墳
- 25. 毛人谷城跡
- 26. 毛人谷遺跡
- 27. 堀ノ内遺跡
- 28. 畑ノ田遺跡
- 29. 富田林寺内阿刀遺跡
- 30. 宮前山4号墳
- 31. 林口遺跡
- 32. 喜志東遺跡
- 33. 小金平古墳群
33-4. 宮林古墳
33-5. 小金平古墳
33-6. 榎木谷古墳
- 34. たいついで池火葬墓
- 35. アミダ遺跡
- 36. 中野東遺跡
- 37. 太郎池遺跡
- 38. トコノ浦遺跡
- 39. 新家遺跡
- 40. 通法寺遺跡
- 41. 錦織神社境内遺跡
- 42. 新家古墳

- 43. 甲田遺跡
- 44. 水都邸<府史跡>
- 45. 甲田南遺跡
- 46. 川西古墳
- 47. 錦織遺跡
- 48. 錦織摩寺
- 49. 西板持遺跡
- 50. 梅田遺跡
- 51. 円照寺跡
- 52. 別井遺跡
- 53. 西大寺山遺跡
西大寺山古墳群
53-1. 西大寺山北古墳
53-5. 西大寺山古墳
- 54. 山中田城跡
- 55. 霧山城跡
- 56. 山中田北遺跡
- 57. 板持丸山古墳
- 58. 平木遺跡
- 59. 滝谷遺跡
- 60. 板持4号墳
- 61. 柳ヶ坪遺跡
- 62. 板持古墳
- 63. 板持1号墳
- 64. 板持2号墳
- 65. 板持3号墳
- 66. 下佐備南遺跡
- 67. 尾平遺跡
- 68. 寛弘寺遺跡
- 69. 中佐備築跡
- 70. 佐備神社西遺跡
- 71. 彼方遺跡
- 72. 彼方丸山古墳
- 73. 稲風台古墳
- 74. 滝谷A地点遺跡
- 75. 滝谷B地点遺跡
- 76. 彼方古墳
- 77. 彼方西遺跡
- 78. 柳谷南築跡
- 79. イタイコ古墳群
- 80. 佐備川西岸遺跡
- 81. 岸之本遺跡

- 82. 岸之本南遺跡
- 83. 菟泉東遺跡
- 84. 佐備川A地点遺跡
- 85. 佐備川B地点遺跡
- 86. 甘南備遺跡
- 88. 浦川東遺跡
- 89. 嶽山遺跡
- 90. 龍泉寺
- 91. 龍泉寺墓
- 92. 嶽山築跡
- 93. 嶽山山角遺跡
- 94. 龍泉寺城跡
- 95. 金胎山遺跡

- 96. 嶽山古墳群
- 97. 山中田1号墳
- 98. 山中田2号墳
- 99. 山中田3号墳
- 120. 金胎寺山遺跡
- 121. 田中古墳群
- 121-4. 田中4号墳
- 127. 滝谷南古墳群
- 128. 奥ノ谷古墳群
- 129. 外子遺跡
- 130. 西野々古墳群
130-1. 明八塚古墳
130-2. 千代塚古墳
- 136. 東高野街道錦織一里塚<府史跡>
- 137. 市村北遺跡
- 138. 錦織西遺跡
- 139. 錦織南遺跡
- 141. 堂ノ山古墳
- 143. 南坪池古墳
- 144. 甘山古墳
二本松古墳<府史跡>
- 147. 甘山北古墳
- 148. 甘山古墓
- 149. 寺ヶ池遺跡
- 150. 榎坂古墓
- 152. 五軒家築跡
- 153. 五軒家遺跡
- 154. 喜志城跡
- 155. 桜井北遺跡
- 156. 錦聖遺跡
- 157. 細井摩寺
- 158. 寺池遺跡
- 159. 畑ノ田南遺跡
- 160. 毛人谷南遺跡
- 161. 中野西遺跡
- 162. 明築遺跡
- 163. 寺内町北遺跡
- 164. 谷川遺跡
- 165. 畑ノ田東遺跡
- 166. 北大伴遺跡(A地区)
- 167. 西明寺遺跡
- 168. 北大伴遺跡(B地区)
- 169. 南大伴遺跡
- 170. 粟ヶ池西遺跡
- 171. 甘山南古墳
- 172. 新堂北遺跡
- 173. 東高野街道
- 174. 寛弘寺古墳群
- 185. 御堂遺跡
- 186. 堂町遺跡
- 187. 本町遺跡
- 188. 西板持北遺跡
- 189. 宮町今池遺跡

図1 市内遺跡分布図



図2 新規発見遺跡と周辺遺跡分布図

第2章 甲田遺跡（KD2016-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

甲田遺跡は市域の中心部である甲田一・二丁目辺りに所在し、地形的には石川の西岸に形成された河岸段丘の低位～中位段丘面に位置する。今回の調査地は西から東へ向けて傾斜する低位段丘面に位置し、すぐ西側の東高野街道との間に段丘崖があり、2.5m程の比高がある。調査地に隣接する東高野街道は中位段丘の端を走っており、ちょうど段丘のラインに沿っている（図3）。

甲田遺跡の存在が知られるようになったきっかけは、昭和43年（1968年）に甲田浄水場（今回調査地の南約200mに所在）の進入路工事の際に須恵器短頸壺と杯身・杯蓋が出土したことによる。その後、昭和46年（1971年）～51年（1976年）に本市で実施した分布調査によって、遺跡としての広がりが確認された。現在では、弥生時代から中世にかけての集落遺跡として周知されている。

周辺の発掘調査報告事例としては、今回の調査地より西へ20m程の中位段丘面上で、1992年に調査が行われた地点（富田林市1993）が一番近い。調査範囲が狭いために遺跡の詳細は不明であった。ただし、出土遺



図3 調査地周辺遺跡分布図

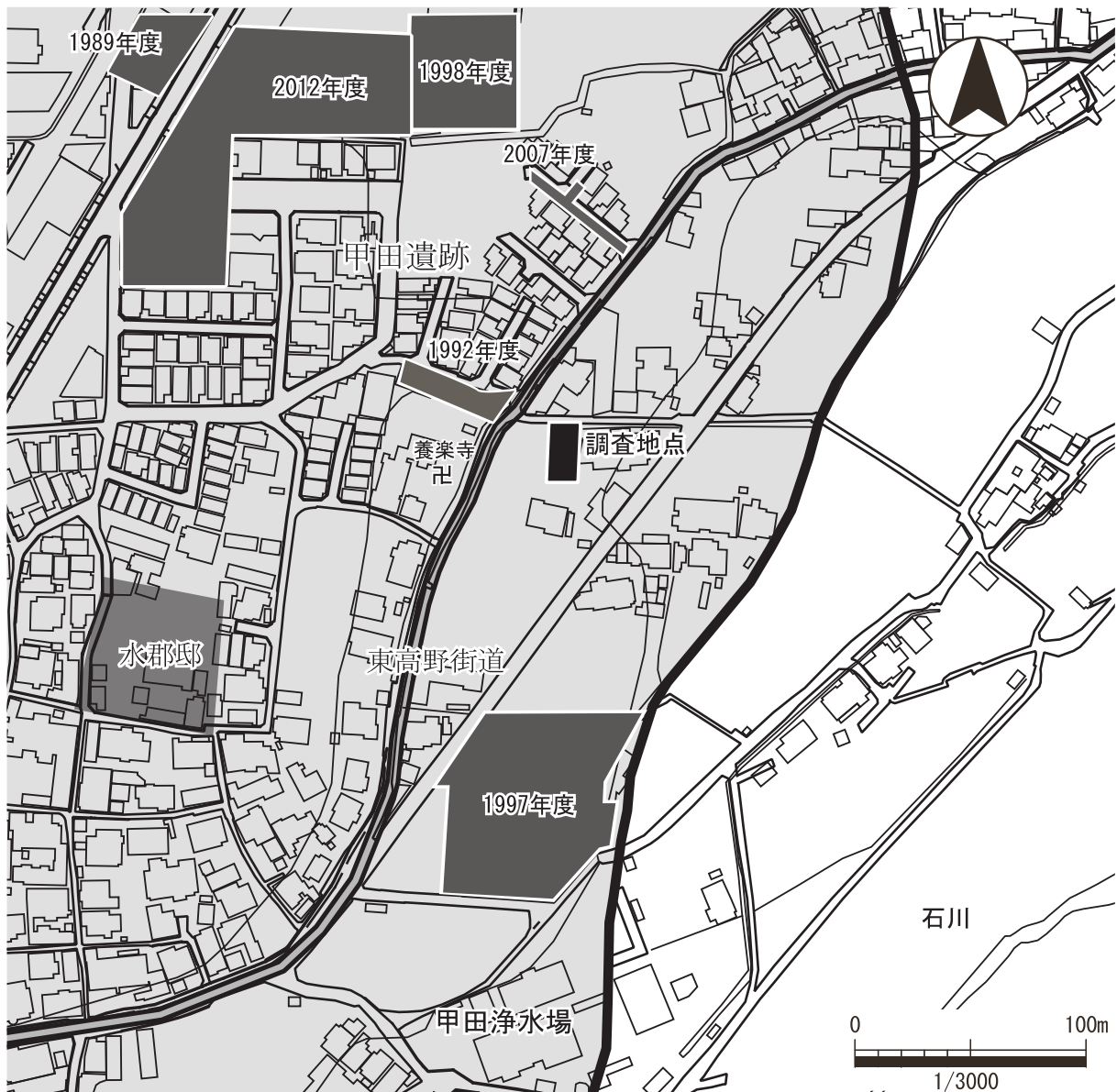


図4 主な既存調査地点図

物の中に瓦片が認められ、寺院の存在を示唆する資料であると報告している。また、隣接地に黄檗宗養楽寺があり、養楽寺の寺域が現在のものより広い範囲に及んでいた可能性についても触れている(図4)。

今回の発掘調査は個人住宅の新築工事に伴い、実施したものである。この工事による発掘届出書が平成28年12月2日に提出されたことを受け、申請者と協議を行った。調査地の近辺での調査実績はあるものの、多くは中位段丘上であり、地形の条件が異なるため早急に事前調査を行い、工事による影響の有無を確認する必要があると判断した。

平成29年1月18日・23日の2日間かけて事前調査を実施したところ、遺構と思われる地層の落ち込みや土器片などが出土した。計画では、遺構面よりも下まで基礎の改良工事が行われることから、

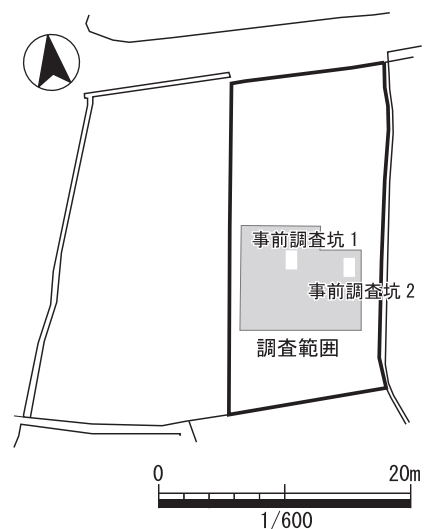
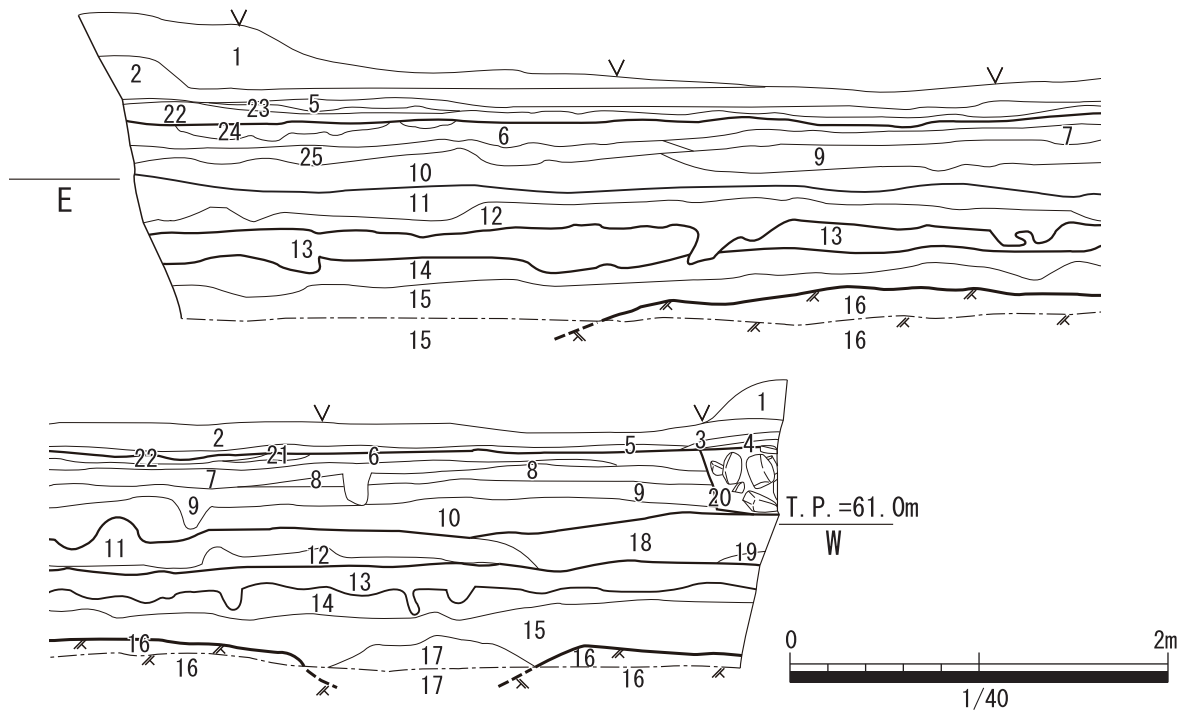


図5 調査位置図



- [土色]
- 1: 盛土
 - 2: 現代耕土
 - 3: 床土
 - 4: 床土
 - 5: 床土
 - 6: 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂を少し含む粘質シルト (鉄分含む)
 - 7: 2.5Y4/1 黄灰色粗砂を含む粘質シルト (鉄分含む)
 - 8: 2.5Y3/2 黒褐色粗砂礫を含む粘質シルト (鉄分・小礫少し含む)
 - 9: 2.5Y3/2 黒褐色粗砂を含む粘質シルト (鉄分・風化礫を含む)
 - 10: 2.5Y3/1 黒褐色粗砂礫混粘質シルト (風化礫を含む)
 - 11: 2.5Y2/1 黒色粗砂礫混粘質シルト
 - 12: 2.5Y2/1 黒色粗砂礫を少し含む粘質強シルト
 - 13: 2.5Y4/1 黄灰色粗砂礫を含む粘質強シルト (木質片を多く含む) 上面よりの踏み込み
 - 14: 2.5Y5/1 黄灰色砂をわずかに含む粘質強シルト
 - 15: 5Y5/1 灰色シルト質粘土
 - 16: 7.5Y5/1 灰色砂礫
 - 17: 7.5Y4/1 灰色シルト質粘土
 - 18: 2.5Y2/1 黒色粗砂礫混粘質シルト (3~5cm大の礫・木質片を含む)
 - 19: 2.5Y2/1 黒色粘質強シルト (粗砂・木質片を少し含む)
 - 20: SD1 2.5Y3/2 黒褐色砂混粘質シルト (河原石・瓦多量に含む)
 - 21: 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂混粘質シルト
 - 22: 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂混粘質シルト
 - 23: 2.5Y4/1 黄灰色細砂混粘質シルト
 - 24: 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂混粘質シルト
 - 25: 10YR3/2 黒褐色砂を含む粘質シルト

図6 南壁土層断面図

建物範囲 (調査対象面積 75 m²) について本発掘調査を実施することとなった (図5)。

現地調査は2017年2月15日～3月3日までの期間実施し、現場の実働日数は13日間であった。

第2節 調査の成果

1. 基本層序 (図6・図版1下段)

基本層序は、造成時盛土 (1層)、造成直前までの旧耕作土 (2～5層)、暗灰黄色粗砂を少し含む粘質シルト層 (6層)、黒褐色砂を含む粘質シルト層 (25層)、黒褐色粗砂礫混粘質シルト層 (10層)、黒色粗砂礫混粘質シルト層 (11層)、黒色粗砂礫を少し含む粘質強シルト層 (12層)、黄灰色粗砂礫を含む粘質強シルト層 (13層)、黄灰色砂をわずかに含む粘質強シルト層 (14層)、灰色シルト質粘土層 (15層)、灰色砂礫層 (16層) の地山へと続く。

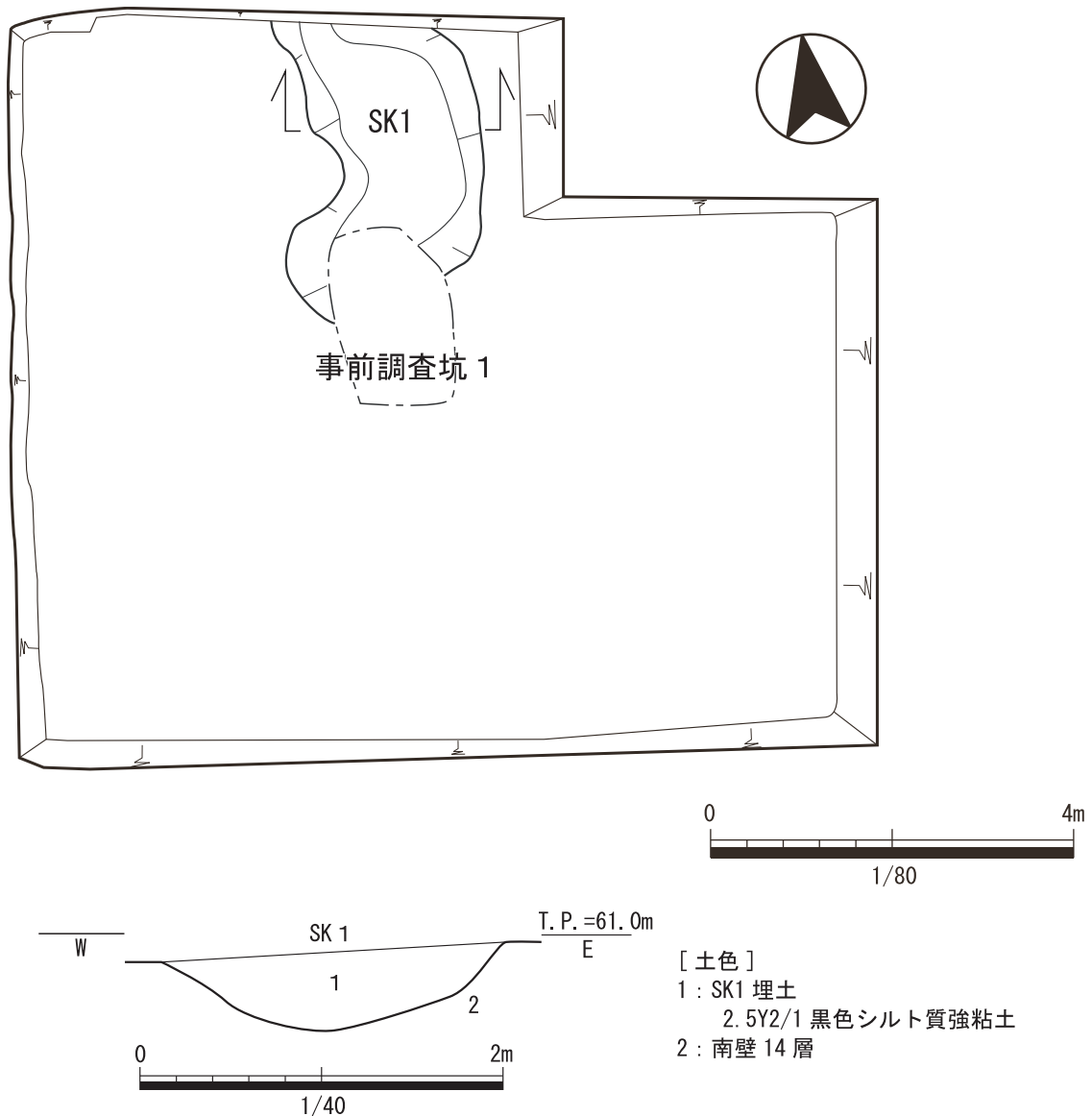


図7 第4検出面（14層上面）平面図・SK1断面図

今回調査での第1検出面は6層上面、第2検出面は11層上面、第3検出面は13層上面、第4検出面は14層上面とし、遺構検出を行った。

第1検出面での遺構検出は当初予定していなかったものである。ところが、機械掘削を調査地東側から行っていたところ多量の瓦片が出土したため、急遽遺構検出を行った。その為、遺構南端部分は機械掘削時に削平してしまった。機械掘削中に確認した限りではベースの6層については耕作土と考えているが、鋤溝などは確認していない。

第2検出面では作業中から水が染み出し、以下の地層はどこでも水が染み出てくる状況であった。遺構はみつからず、耕作面と考える。次の13層が湿地堆積であることから、11・12層で湿地を埋め立てた後に耕作域として使用されるようになったと考えられる。(図8)

第3検出面のベースである13層は湿地状の堆積で、層中に若干の遺物と多くの木質片が含まれ、上面には上層(12層)からの踏み込み痕跡が少し認められた。

第4検出面では、土坑状の遺構SK1を検出した。また、13層中から踏み込まれた偶蹄類の足跡が無数に確認できた(図版2下段)。

年代の分かる遺物が出土したのは13層で、弥生中期の土器片と、7世紀代の須恵器杯（図9-1）が出土している。14層以下から遺物は出土しなかった。

2. 遺構

a) 第4検出面（図7・図版2）

第4検出面（14層上面）は13層からの踏み込み痕跡が多数確認できた。形状の確認できたものに関しては偶蹄類の足跡で、歩いている方向などがわかるものもあった。ただしいずれも小さく、5cm～位の大きさの為、人間の足跡は確認できなかった。

ただし、13層上面で検出した12層からの踏み込み状のものに関しては大きさが大きかったため、人間の可能性はある。この他、調査地北半部で不定形の土坑状の遺構SK1を検出した。

SK 1

SK1は事前調査時に遺構の可能性があったとしていたものである。平面形は不定形で、南北に長い形状をしている。長さ2.2m以上、幅1.9mで、深さは深いところで0.4mである。試掘時には埋土より遺物片が出土したが、今回の調査で検出した部分からの出土遺物は無かった。

この周辺からは13層の掘削時に遺物が他に比べて多く出土しており、遺構というよりは元々あった窪みのようなもので、周辺より少し下がったところに沈んだ遺物が集まってきた可能性がある。

b) 第3検出面

第3検出面（13層上面）は13層中に多く含まれていた木質片が層上に多数検出された。木製品であるかと共に、ある程度の大きさのものについては加工痕跡がないかどうかを現地で確認したが、明らかに加工された痕跡のあるものはなかった。また、遺構と考えられるものは検出できず、一部に12層からの踏み込み痕跡と考えられるものが認められたのみである。少量出土した13層からの出土遺物の中で一番新しいものは7世紀代である。

c) 第1・2検出面（図8・図版3・4）

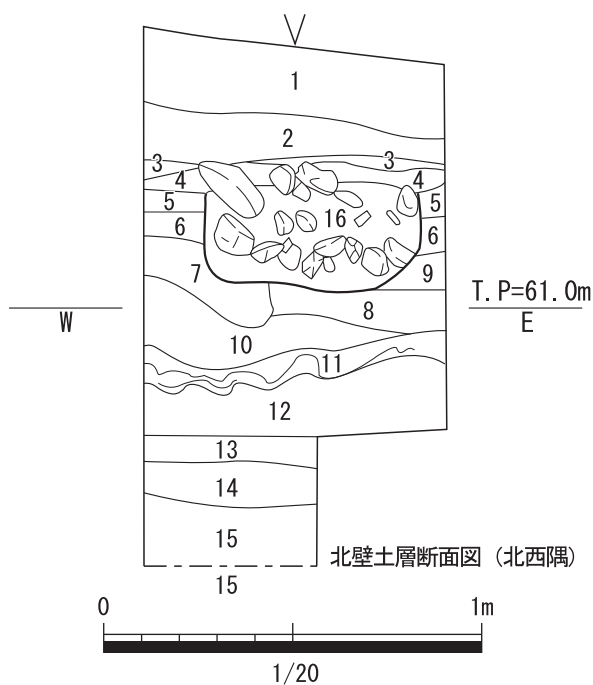
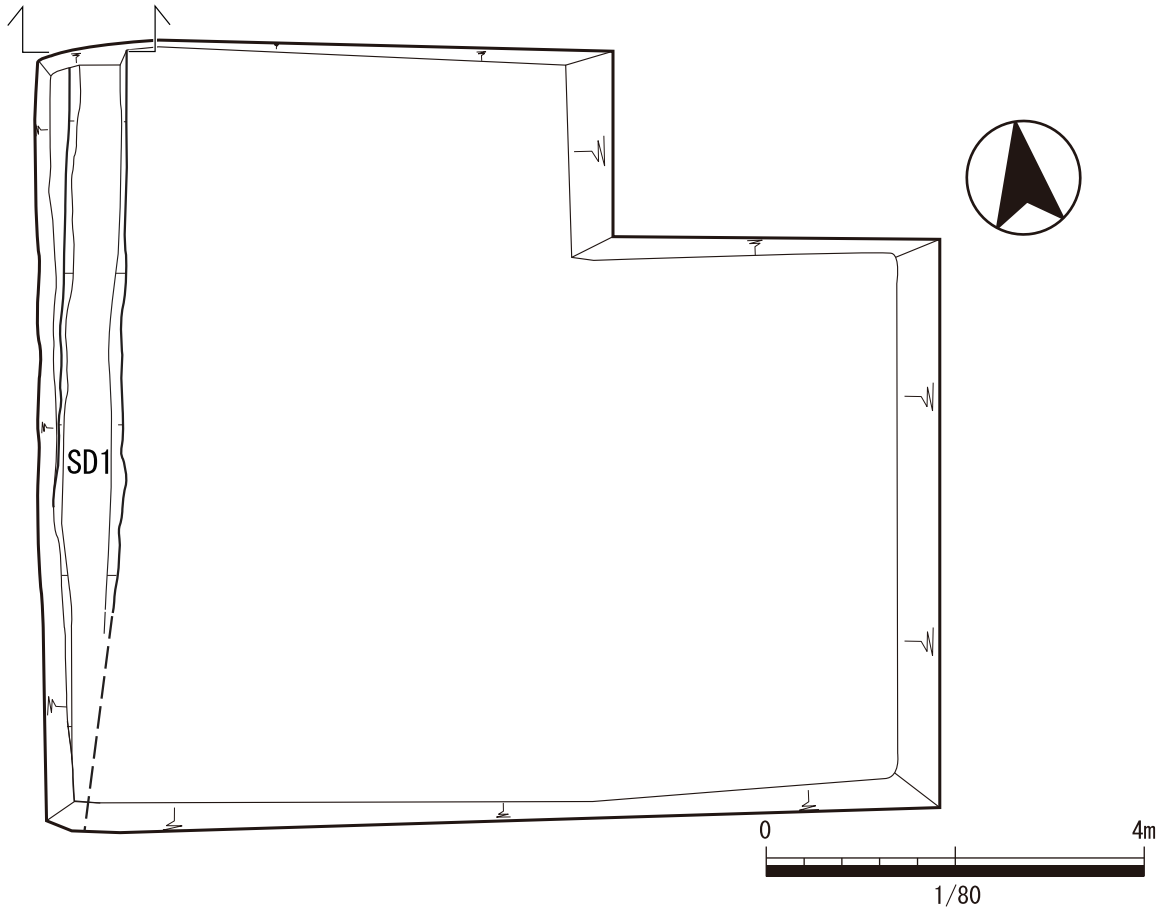
基本層序でも触れたが、第1検出面は本来調査を行う予定ではなかった。事前調査の結果から、11層上面での遺構検出をまず行う予定であったため、11層の一つ上位層である10層上面まで機械掘削を行っていた。

調査地の東側から耕作土層を1層ずつ下げながら西へと掘り進めていたところ、南西隅近くで瓦が多量に出土した。初めは現代耕作土に続く耕作層であり、浅いところで検出したため、瓦礫の入った攪乱かとも思ったが、出土した瓦を確認したところ中世の瓦片であったために慌てて機械を止め、遺構の検出を行った。ただし、西端以外のところは6層よりもさらに掘削を進めていたのでそのまま調査を進め、第2検出面（11層上面）で遺構検出を行った。結果、第2検出面では遺構は確認できなかった。

SD 1

調査地西端で検出した北東-南西方向にまっすぐに延びる溝で、両端は調査区外へ続き、検出長約8.0m、幅約0.6m、深さ約0.3mである。溝は丁寧に掘られており、埋土は水分の多い黒褐色砂混粘質シルトで多量の礫と瓦片が含まれている。出土した瓦片は砕かれているとみられ、大きな破片は含まれていなかった。平面形がまっすぐに伸びることや、瓦礫が密に詰め込まれている埋土などから水田の水抜き用の暗渠だった可能性がある。

出土遺物の詳細については後に譲るが、出土遺物は12～15世紀の物が出土している。そのことより、暗渠であるならば15世紀代に造られた遺構、普通の溝であれば15世紀代に廃絶した遺構と考えられる。



[土色]

- 1: 盛土
- 2: 現代耕土
- 3: 現代耕土
- 4: 床土
- 5: 2.5Y5/3 黄褐色粗砂を含む粘質シルト
(鉄分多く含む)
- 6: 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂礫を含む粘質シルト
(鉄分含む)
- 7: 2.5Y3/2 黒褐色粗砂を含む粘質シルト
(鉄分含む)
- 8: 2.5Y4/1 黄灰色砂を含む粘質シルト
(鉄分を少し含む)
- 9: 2.5Y3/2 黒褐色砂礫混粘質シルト
(風化礫を含む)
- 10: 2.5Y3/1 黒褐色砂を含む粘質シルト
- 11: 2.5Y2/1 黒色細砂・粘質シルト
(踏み込みによる層の乱れ) (=南壁 12 層)
- 12: 2.5Y2/1 黒色細砂混粘質シルト
(木質片を多く含む) (=南壁 13 層)
- 13: 南壁 14 層
- 14: 南壁 15 層
- 15: 南壁 15 層
- 16: SD1 南壁 20 層

図8 第1検出面(6層上面)平面図・SD1断面図

前述のとおりこの遺構が暗渠であった場合、もともと水捌けの悪い土地であることから水田の水抜きのための暗渠である可能性が指摘できる。ただし、今回のような形態の水田の水抜きに用いられる暗渠は近世後期に多く導入されており(大蔵永常 1822)、15世紀代にこのような工事を行った事には疑問が残る。そのため

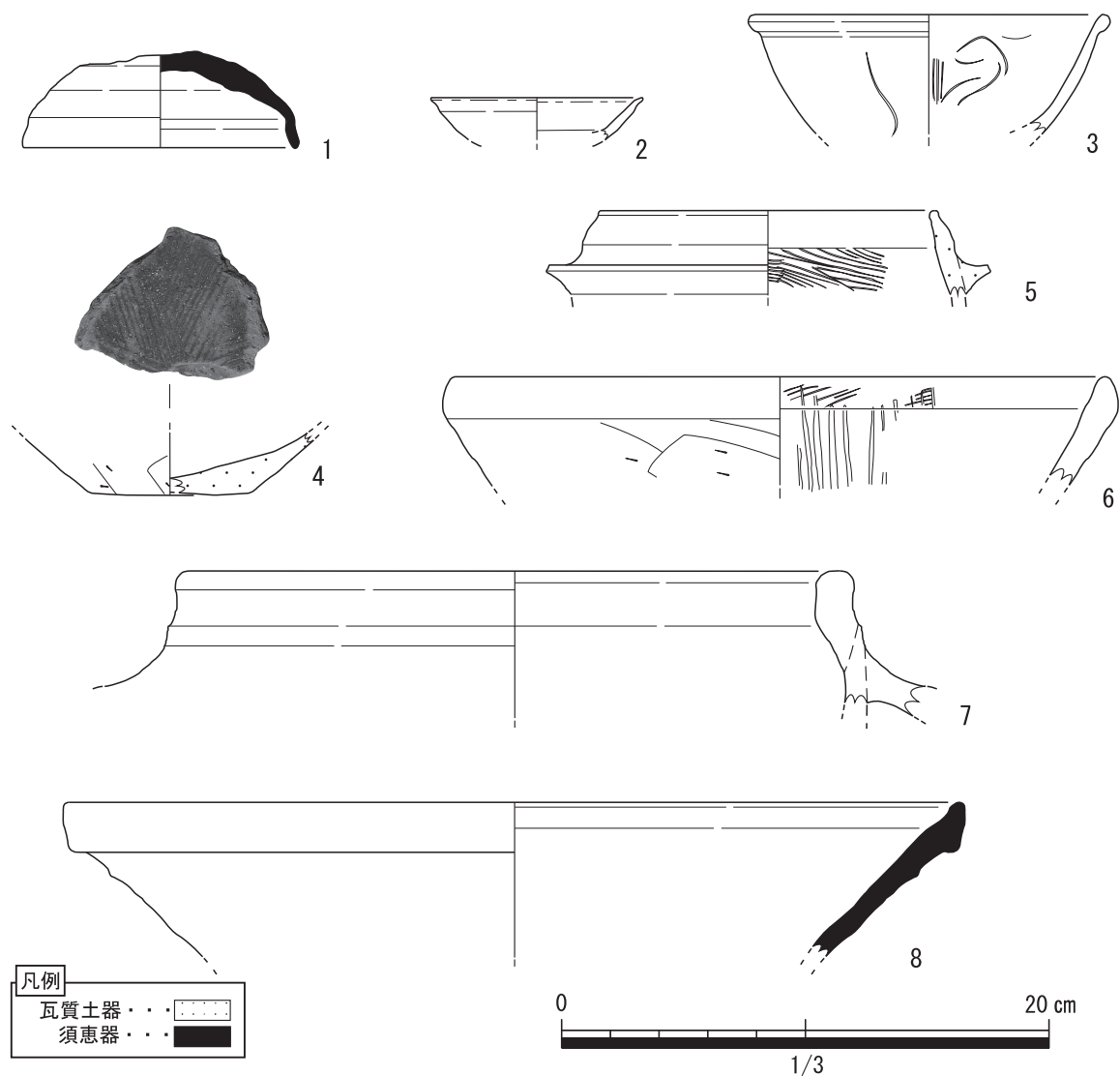


図9 出土遺物（1）

近世に掘削を行い、暗渠内を埋めるのに利用した瓦礫がたまたま中世の遺物を含んだ瓦礫を廃棄した可能性も考えられる。

一方で建物に伴う溝や暗渠であった場合は、SD1より東側には建物があった痕跡は見つかっていないため、調査区より西側の段丘崖との間に建物が展開していたことになる。ただし、地層自体に水分含有量が多く、瓦葺建物が建っていたとは想定しづらい。どちらにしても遠方から瓦礫を持ってきたとは考えにくく、近辺に古瓦を入手できる場所があったのだろう。

第1節でも触れている調査地西方で行われた1992年の調査でも、中世の瓦片が少量出土しているが、直接その瓦に伴う建物などは見つかっておらず、瓦の出自について不明であることは今回と共通する。

3. 遺物（図9・10）

出土遺物はSD1を除けば全体的に少ない。大半はSD1からの出土遺物で、地層からの出土遺物は年代の分かるものはほとんどなかった。その中で、13層中の出土遺物（1）と、SD1の出土遺物（2）～（16）を図化した。

13層出土遺物

須恵器杯蓋（1）は、層中出土遺物が細片ばかりの中、ほぼ完形に近い状態で出土した。口径11.3cm、器

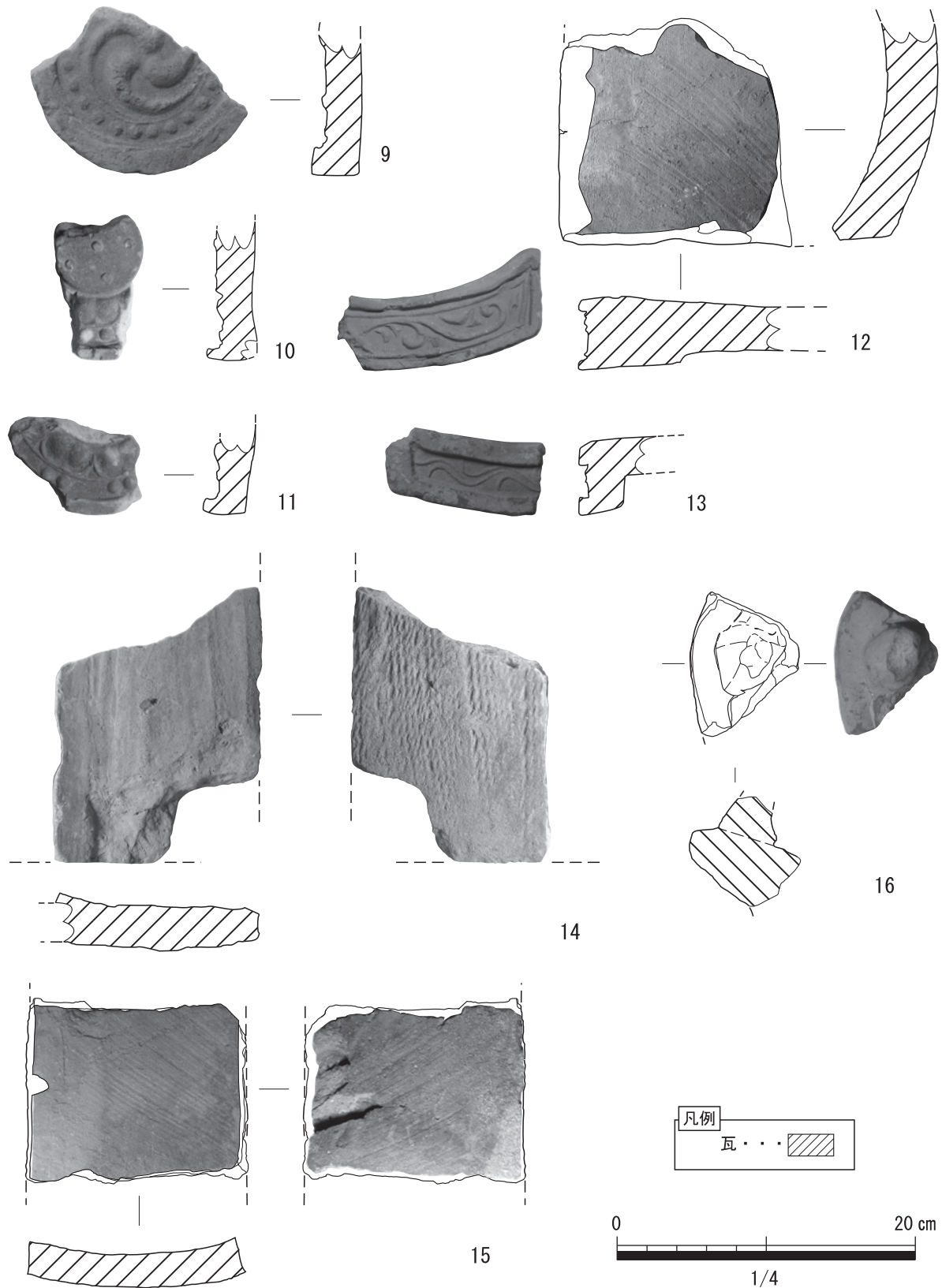


図10 出土遺物(2)

高4.1cmで、胎土は灰白色で焼成は甘く、上部にはヘラおこしの痕跡が残る。7世紀代のものである。このほか弥生中期の土器片なども出土している。

SD1 出土遺物

出土遺物は土師質土器羽釜（7）・播鉢（6）、瓦質土器羽釜（5）・播鉢（4）、東播系須恵器捏鉢（8）、中国製白磁皿（2）、中国製青磁碗（3）、軒丸瓦（9～11）、軒平瓦（12・13）、平瓦（14）、熨斗瓦（15）、鬼瓦（16）を図化した。

中国製白磁皿（2）は口径 8.7 cm の平底形の口禿皿で、13 世紀後半頃のものと考えられる。中国製青磁碗（3）は口縁部を玉縁状につくり、内外面共に文様を陰刻するがはっきりしない。口径は 14.4 cm で、14 世紀頃のものである。

土師質土器羽釜（7）は口径 26.0 cm で、口縁部は直立する。土師質土器播鉢（6）は口径 27.0 cm で、内面はハケ調整後にクシ描きによる摺目を施している。黒く燻されていないが、瓦質土器の可能性はある。SD 1 出土遺物の中では新しく、15 世紀代のものである。

瓦質土器播鉢（4）は底径 6.6 cm で、内面はクシ目による摺目を施す。体部と底部はヘラケズリ調整している。瓦質土器羽釜（5）は口径 13.8 cm の小型の羽釜である。内面はハケ目が残り、口縁部は横ナデ調整を施す。14 世紀頃のものである。

東播系須恵器播鉢（8）は口径 37.0 cm で、口縁部外縁帯には自然釉薬が掛かり、重ね積痕跡が残る。14 世紀代のものである。

軒丸瓦には蓮華文と巴文のものがある。蓮華文軒丸瓦（10）・（11）は複弁蓮華文で、華弁の周りには 2 個を 1 対とした珠文が巡る。外縁部の幅は狭い。巴文軒丸瓦（9）は巴文の尾の周りに圈線が巡り、外縁部は低い。軒平瓦（12）は、唐草文の周りに圈線が巡る。文様は肉厚で、外縁部は低い。凹部には糸切痕が残り、凸部はヘラナデされている。

一方、軒平瓦（13）も唐草文だが圈線はなく、文様も細い。顎部は貼り付けによる。平瓦（14）は凹面に縄叩き痕が残る。図化していない平瓦を見ると、縄叩きをナデ消して縄目が目立たないものもあった。

熨斗瓦（15）は幅 14.6 cm、厚さ 2.1 cm で、凹凸両面に斜め糸切痕がある。鬼瓦（16）は、鬼瓦の角部であるとされる。

出土遺物を概観すると、12 世紀末～15 世紀と年代幅は広い遺物が出土している。また、完形品やそれに近いものも無く、瓦・土器類共に破片ばかりである。

第3節 まとめ

今回の調査で遺構は 2 基しかみつからなかったにも関わらず、多量の遺物が SD 1 より出土した。SD 1 のベースとなった 6 層の年代については古墳時代以降としかわからないが、用途としては耕作地である。耕作地上面に掘削された遺構で、畦畔などの耕作地境界ではないところに設けられた遺構であるとする、普通に考えれば耕作をするのに邪魔である。遺構直上は床土であり、水田底の直下に設けられている。これらのことから、水田の水抜き排水用の暗渠ではないかと考えた。SD 1 の西側については調査が及んでいないためどのような状況であるのか分からないが、調査成果から見ると地盤の弱さなどからも建物に伴うような遺構とは考えにくい。

遺構の年代については素直に出土遺物の年代観をあてると 15 世紀頃の遺構と考えられる。しかし、水田の水抜き排水用の暗渠は近世後期になると多く用いられるようになること、検出面が新しい時代の耕作土直下であることなども併せて、近世の遺構である可能性が高いと考える。今回の調査では包含層からの出土遺物は極端に少なく、遺構掘削時にも新しい遺物が入り込まなかった要因の一つだろう。

今回の調査では、調査地周辺がある時期湿地であったことがわかった。その後耕作地として使用されるようになるのは7世紀以降のことであり、それ以降現代まで連綿と使用されてきた。一方で、耕作地として使用されていたと考えていた所で瓦を大量に含む溝を確認したが、時代・用途も含め位置づけの難しいものであった。しかし、出土した瓦は隣接する養楽寺も含め、周辺での寺院に繋がる資料として、今後注意する必要がある資料となった。

参考・引用文献

- 1822 大蔵 永常 『農具便利論』
- 1970 小山 正忠・竹原 秀雄 『新版標準土色帖』
- 1990 大阪府教育委員会 『甲田遺跡発掘調査概要』
- 1993 富田林市教育委員会 『平成4年度富田林市内遺跡群発掘調査概要』 富田林市遺跡調査報告 22
- 1997 富田林市遺跡調査会 『甲田遺跡』 富田林市遺跡調査会報告 9
- 1998 富田林市遺跡調査会 『甲田遺跡Ⅱ』 富田林市遺跡調査会報告 10
- 2008 富田林市教育委員会 『甲田遺跡・喜志南遺跡』 富田林市遺跡調査報告 41
- 2012 富田林市教育委員会 『甲田遺跡』—農地整備に伴う発掘調査報告 (KD2011-1)—
富田林市文化財調査報告 50

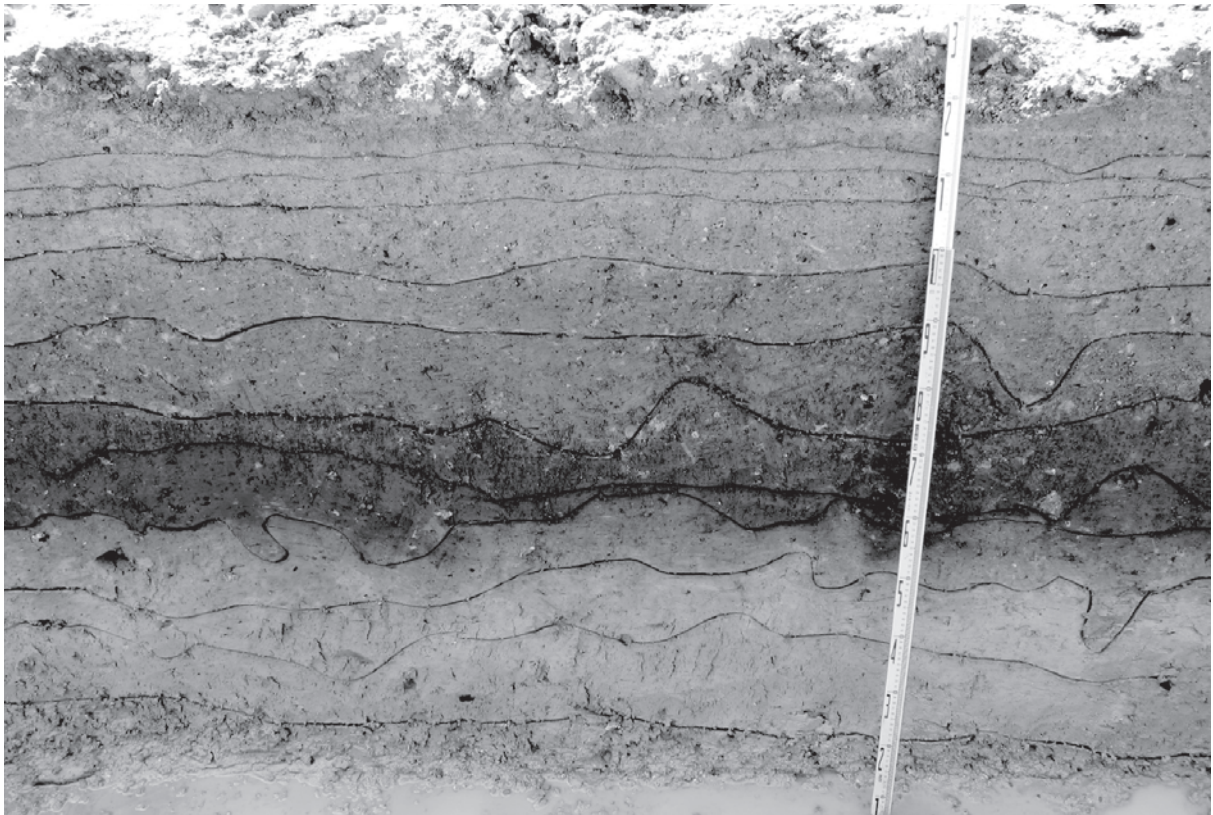
報告書抄録

ふりがな	へいせい29ねんどんだばやししないいせきぐんはつくちょうさほうこくしょ							
書名	平成29年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書							
シリーズ名	とんだばやししぶんかざいちょうさほうこく							
シリーズ番号	富田林市文化財調査報告62							
編集機関	富田林市教育委員会		編著者名	渡邊 晴香				
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000 (代)							
発行年月日	2018 (平成30) 年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こうだいせき 甲田遺跡	とんだばやしこうだ 富田林市甲田 にちょうめ 二丁目	27214	49	34 29 42	135 35 44	2017.02.15 ～ 2017.03.03	75 m ²	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
こうだいせき 甲田遺跡	集落跡	中世及び 近世か	溝	須恵器、瓦、 中国製磁器 瓦質土器		中世の土器、瓦、礫など が多量に埋められた溝状 の遺構が見つかった。		

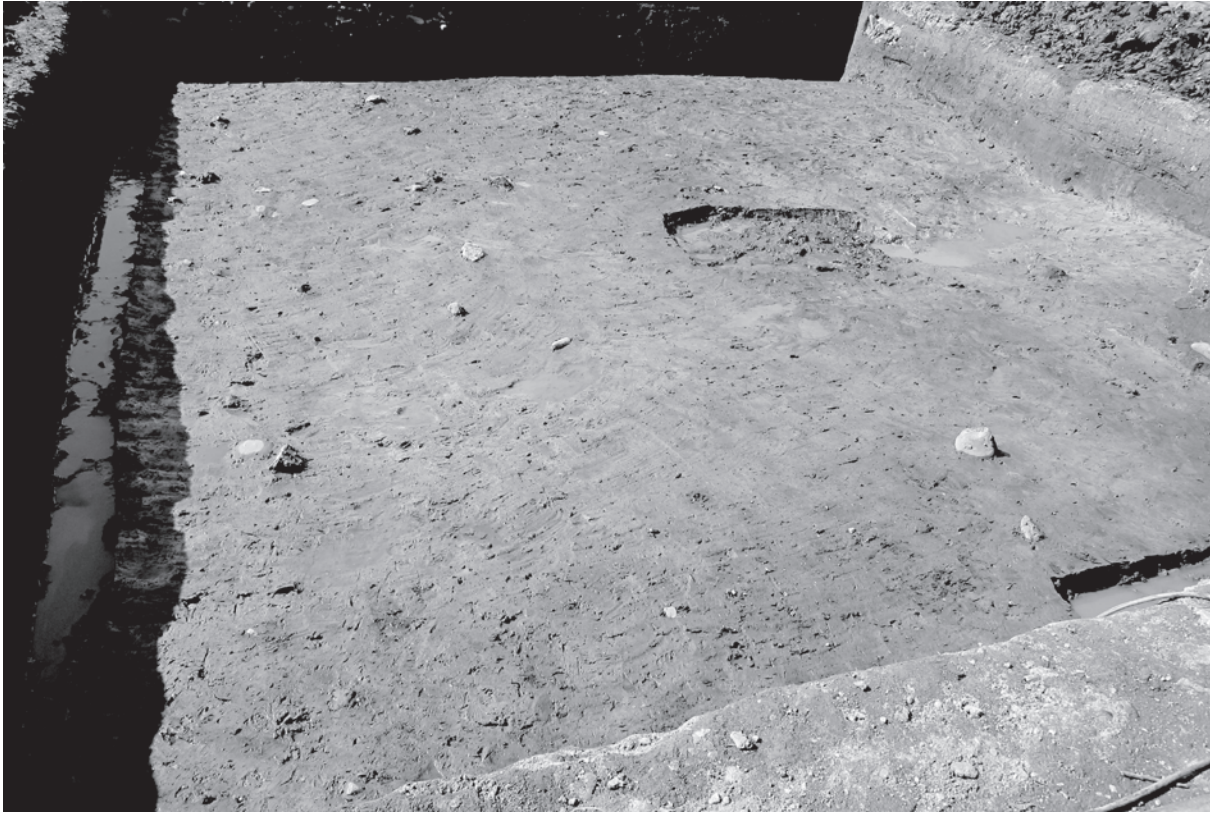
圖 版



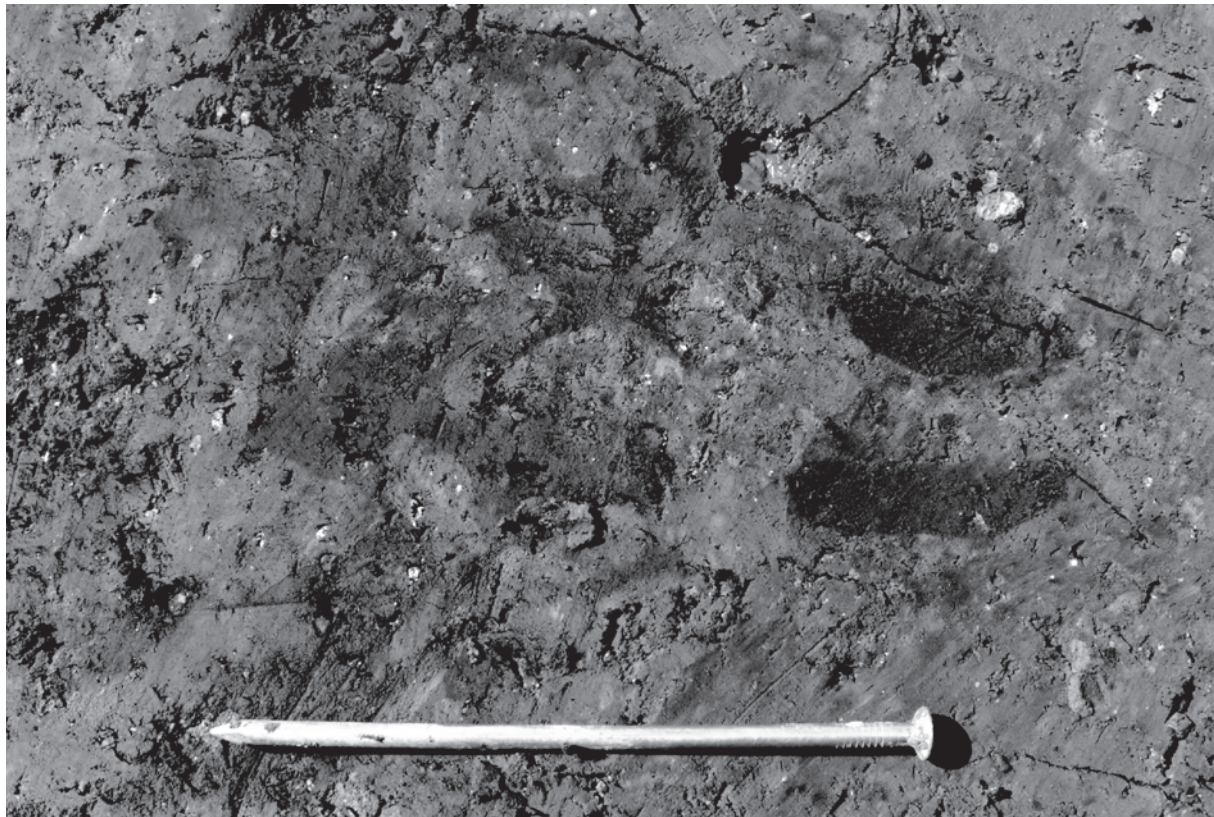
調査地より西をのぞむ (東より)



南壁土層断面 (北より)



第4検出面 (14層上面) 遺構検出状況 (東より)



13層より踏み込む偶蹄類の足跡



第1検出面（6層上面）遺構検出状況（北より）



北壁土層断面（南より）



SD 1 土層断面 (北より)



SD 1 完掘状況 (北より)

平成29年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日 2018年3月30日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社